

【分野名：医学系】

大 学 名	山形大学
拠点のプログラム名称	地域特性を生かした分子疫学研究
中核となる専攻等名	医学系研究科医学専攻
拠点リーダー氏名	河田 純男

《拠点形成の概要》

ヒトゲノム計画によりヒトゲノムの全塩基配列がほぼ明らかになった。ポストゲノム時代に突入した現在の最重要課題のひとつは、ゲノム研究の成果を臨床・医療へ橋渡しする研究（トランスレーショナル・リサーチ）である。本プログラムの目標は、当医学部が1979年より実施してきた地域住民コホート研究をさらに発展させ、遺伝子多型（遺伝子の塩基配列の個人差）

の医学的意義を解明するための世界的な研究・教育拠点を形成することである。これにより(1)ゲノム情報に基づく有効で安全な医薬品の開発（ゲノム創薬）や(2)個人個人の体質に最適な医療（オーダーメイド医療）の確立の基盤が構築できる。本拠点の特徴は(1)対象住民の遺伝的多様性が小さい、(2)追跡調査を完璧に実施可能、(3)臨床データの精度が高い、(4)コホート集団の規模が大きい、(5)遺伝子解析の同意率が高い（80%以上）等である。このように世界に類を見ない地域特性を生かして、既に「糖尿病の発症に寄与する遺伝子」や「C型肝炎ウイルスの排除に関与する遺伝子」の遺伝子多型を発見している。これらの研究成果を基盤にして、さらに生活習慣病（高脂血症、高血圧、動脈硬化、脳卒中、心筋梗塞、糖尿病性網膜症・腎症）、パーキンソン病、肝疾患、および消化器がん等について「精度の高い臨床データベース」と「ゲノムの全領域に亘る遺伝子多型データベース」を構築するとともに、国内外の優れた研究機関との研究交流の推進により、優れた分子疫学研究者を養成する。



